

南山手の文学館

長崎には実に多くの文学碑、詩碑があります。このような長崎は〈歴史の町〉であるとともに〈文学の町〉としても希有な地であると言い得るでしょう。今回は、この長崎に生まれた作家と、その長崎ゆかりの作品を取り上げて、多角的に読み、改めて長崎と文学について考え、理解を深めます。

- 時 間 : 13 : 30 ~ 15 : 30
- 場 所 : 南公民館
- 講 師 : 上出 恵子 先生
- 定 員 : 40 人
- 受講料 : 無料

日程

回	期 日	学 習 内 容	備 考
1	4/21 (火)	◎開講式・オリエンテーション ○佐多稲子『色のない画』(昭和36年) 長崎公園の佐多稲子『樹影』の文学碑は、長崎市内の読者、研究者、教員たちのボランティアにより建立されたものとしてユニークです。長崎の人々に愛された『樹影』のもととなった『色のない画』を取り上げ、長崎の地と原爆の問題について考察します。	準備するもの 筆記用具 
2	5/19 (火)	○林京子『ギヤマン ビードロ』(昭和53年) 学徒勤労動員で被爆した林京子は、〈8月9日の語り部〉として、芥川賞を受賞した『祭りの場』をはじめ原爆文学を書き続けました。このような林京子の原爆の語り方を12の短編からなる連作『ギヤマン ビードロ』を取り上げ、確認いたしましょう。	
3	6/16 (火)	○村上龍『69 sixty nine』(昭和62年) 『限りなく透明に近いブルー』によって芥川賞を受賞し、デビューした村上龍は、作品だけでなく村上自身もセンセーショナルな存在として際立っています。その村上龍の青春小説である『69 sixty nine』を取り上げ、当時の時代状況を踏まえつつ、読み深めます。	
4	7/21 (火)	○吉田修一『悪人』(平成19年) 『国宝』の映画化で今また注目の吉田修一は、『パレード』で山本周五郎賞、『パーク・ライフ』で芥川賞を同年に受賞した純文学かつエンターテインメント作家です。その代表作の一つであり、福岡や長崎の都市描写に出会い系という現代の若者の風俗を絡め、人間の闇に迫った『悪人』を取り上げ、その文学の魅力に迫ります。 ◎閉講式	

● **申込期間** 令和8年3月1日(日) ~ 令和8年3月31日(火) 必着

● **申込方法**

① **電子申請システムによる申し込み**

右下の2次元コードを読み取るか、長崎市電子申請サービスを検索し「令和8年度春の公民館講座【長崎市南公民館】」から申し込む。

② **往復はがき(170円)による申し込み**

往信用はがきの裏に講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、返信用はがきにはあて名をお書きください。

③ **来館による申し込み**

返信用はがきをご持参ください。

※応募者多数の場合は、抽選を行い結果をお知らせいたします。



● **申込み・問合せ先**

長崎市南公民館 〒850-0936 長崎市浪の平町7番19号

TEL095-825-0295 FAX095-825-0294

Email com_minami@city.nagasaki.lg.jp

※南公民館のその他の情報は

長崎市南公民館

検索